

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松本発の住民参加型の医工連携ものづくりモデルの構築
事業主体 (連絡先)	信州メディカル産業振興会 松本市旭 3-1-1 信州大学学術研究・産学官連携推進機構 URA 室内 TEL 0264-37-3421 mail: smia@shinshu-u.ac.jp
事業区分	保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	951,205円 (うち支援金: 760,000円)

事業内容

近年、入院の短期化などにより在宅での看護や介護が増え、家庭内で医療機器・介護用品を使用することが増えています。しかし、狭い部屋では使いづらかったり、操作が難しかったり、かっこよくないデザインだったり、患者さんや家族が満足できないものが多いのが現実です。

そこで、患者さんや高齢者、その家族をはじめ広く住民の皆さんに参加いただき、住民×ものづくり企業×医療・介護従事者により、誰もが使いやすく、デザインもよく、みんなが元気になる、在宅医療・介護用の医療機器等を作り出す「住民参加型の医工連携ものづくりモデル」を構築する。



アイデアを出すワークショップ

【目標・ねらい】

- ① 本事業の普及啓発
- ② ワークショップの疑似体験
- ③ 医工連携ものづくりモデルの有効性の確認

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

普及啓発の活動により、住民、行政、企業、医療・介護従事者から本事業の実施について賛同を得ることができた。その結果、長野県モノづくり産業振興戦略プラン(2018-2022年度)に本事業の活動が組込まれた。

セミナー等への住民参加数は目標を下回ったが、ワークショップに参加した住民からは「また参加したい」「面白かった」とのコメントが多く、本事業で提案する住民医工連携ものづくりモデルの有効性を確認することができた。

※自己評価【B】

【理由】本事業の住民等への普及啓発活動を予定通り実施することができた。ワークショップ参加者から「また参加したい」との回答があり、医工連携ものづくりの仕組みとしての有効性も確認できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

引き続き、患者さんや高齢者、その家族を含めた住民への普及啓発活動を進める。次年度は、中高齢だけでなく若年層(小中高大学生)に対する普及啓発活動をスタートすると共に、信州リビング・ラボ、松本ヘルスラボとも連携しながら、住民が主体的に参加するセミナーやワークショップ等を設計・実施する。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある